

第22回カリブ諸国連合（ACS）閣僚級会合
蘭浦副大臣ステートメント（仮訳）
（3月10日（金）於：キューバ・ハバナ）

カリブ諸国連合閣僚会合議長 ブルーノ・ロドリゲス・パリージャ・
キューバ外務大臣,
カリブ諸国連合加盟諸国の外務大臣及び代表の皆様,
御列席の皆様,

日本国政府を代表し、本会合において、スピーチを行う機会を頂き、大変に光栄であり名誉であります。また、今次会合議長国のキューバによるホスピタリティにも感謝申し上げます。

日本は、伝統的に中南米諸国とのすばらしい関係を維持してきました。

そうした中、安倍総理は、地球儀を俯瞰する外交を推し進める上で過去3年連続でカリブ諸国を訪問し、みなさまの国のリーダー達との対話を強化してきました。我々は、南北米大陸を結び、太平洋と大西洋に囲まれていることから、地政学的要所であるこの地域の国々との関係を一層深化させていくことを固く決意しております。我が国はこの地域に存在する開発ニーズに的確に対応し、発展を支援したいと考えております。また、ACS加盟諸国との協力を更に

強化したいとも考えております。国連など国際場裏におけるA C S諸国の存在感はますます高まっております。日本とA C S諸国が共有する基本的価値観を普遍化すべく、一層協同したいと考えております。

まさにそのために、昨年9月、安倍総理は日本のA C Sへのオブザーバー加盟を決断し、その意思を表明いたしました。本日は、その総理の決断を受けて、ここキューバで、この重要なA C S閣僚会合に出席させていただくこととなりました。我が国のオブザーバー参加を承認するというみなさまのご決断によって、歴史に新たな1ページが加えられたことを非常に嬉しく思います。日本国外務副大臣（State Minister）として、本日ご列席の大臣・各国代表の方々とともに、日本とA C Sとの関係強化に向け、その先頭に立って共に尽力していきたいと思います。

（中南米政策）

A C S加盟国の大臣・各国代表の皆様がお集まりのこの機会に、安倍政権のもとで、日本政府が現在進めている「日本の対中南米政策」の3つの指導理念である「共に発展」、「共に主導」及び「共に

啓発」， について改めてご紹介させていただきます。

「共に発展」とは， 経済関係を更に強化しようという呼びかけです。日本政府は， 民間と一体となって， 多くの国々との経済関係強化に取り組んでおります。

この関係で， 昨年11月には， マルミエルカ大臣と共同議長として第2回日・キューバ官民合同会議を東京で開催いたしました。本年2月には日・キューバ官民インフラ会議がここハバナで開催されました。カリブ諸国のエネルギー資源やインフラ分野には日本企業が大きな関心を寄せており， 私はその他のACS諸国との間でも， このような官民の連携を通じた， 更なる経済関係の強化の大きな可能性があるかと信じております。

「共に主導」とは， より良い世界の実現のため， 中南米諸国と国際場裏における諸課題への取組に対する関係強化を目指すという我々の意志であります。これを踏まえ昨年9月に行われた第5回日・カリコム外相会合においては， 国連安保理改革実現に向けた， 日・カリコム間の協力関係の維持・強化の重要性を確認いたしましたし

た。日本は、特に軍縮・不拡散、気候変動等、地球規模課題等のグローバルな課題への対処において引き続きACS加盟国との間で連携を強化していきたいと思えます。

「共に啓発」では、要人往来や招へい計画を含めた様々なレベルでの交流拡大を目指すものであります。2015年から始まった「Juntos!!中南米交流プログラム」を通じ、これまでに、この地域から、54名の若手リーダーが日本を訪れました。未来を担う青年との交流は、持続可能な友好信頼関係を発展させる上での礎であります。我々はこうした交流を、引き続き重視していきます。日本は、重要なパートナーであるACS加盟諸国と、こうした3つの「共に」を推し進めていきたいと考えております。

(結語)

日本のACSへのオブザーバー加盟は、日本とACS加盟諸国との関係における重要なマイルストーンとなるものと信じております。

日本とACS加盟諸国とは、共通の価値観と国際場裏での使命感で結ばれた重要なパートナーであります。

最後になりましたが、日本とACS加盟国とがより緊密に結びつき、共に発展、共に主導及び共に啓発を進めていくために皆様と共に一生懸命に協同する決意を表明し、私の挨拶とさせていただきます。

(了)